



通年全事務系統で全窓口業務を 確申期は挙署体制対応

「昼休み時間帯における窓口業務のあり方」について(パート2)

通常業務における職員の昼休みの休憩時間については、3ヶ月も検討しなければ結論が出せない

到底受け入れがたい検討方向

全国税は9月7日、牧野新長官に対し、「昼休み時間帯における窓口業務のあり方」について申し入れを行いました。

その直後の9月12日、庁から「昼休み時間帯における窓口対応についての現在の検討状況」の伝達があり、①昼休みにも相談等の窓口対応をしてもらいたいという納税者ニーズに可能な

限り応えるため、昼休みにも他の時間帯と同様の範囲で行政サービスを提供する、②窓口対応の方向性として、原則、通年で、全署の全事務系等の窓口担当部門において、勤務時間を割り振り、すべての窓口業務に対応すると言う。到底受け入れがたく10月5日の長官交渉で徹底追及していきます。

は、申告納税者の急増を背景に極めてタイトな事務運営となっており、昼休み確保にあいまない対応を取り続けている当局責任が問われてきた。最近、昼休み時間の揭示をとりやめたり、巡回指導方式の採用により昼休み時間の相談打ち切りが難しくなっており、会場管理も困難になっている。加えて、都市周辺署をはじめ、外部相談会場では交代要員が確保できない状況にあり、要員不足状況は慢性化している。このような要員不足のまま昼休みに対応することは労働強化必至であり、

現状でも困難な 休憩場所の確保

現状でも、休憩場所の確保が困難であり、その確保は急務となっているが、その見直しは難しい。ここでは職員が肉体的・精神的にも疲労を回復させることができない。特に、署外会場では各地で休憩場所がほとんど確保できていないのが実態である。

問われる当局責任

今回の確定申告時期の昼休み対応、すなわち昼休みの相談業務従事を検討しているとすれば、極めて憂慮すべきものと考えられる。

近年の確定申告事務

職員の生命と健康に深刻な影響をおよぼす

確定申告指導相談会場における

昼休み時間帯の相談業務は行わないこと

通常期の昼休み確保が先決 確申期の昼休み相談には反対

「昼休みの窓口対応についての検討状況」に対する書記長談話

伝達は、確申期の昼休みもぶっとおして「巡回指導」を行うということに真の狙いがある

通常業務で窓口担当部門の職員は45分間の休憩時間が保障されず、強い不満が渦巻いていた。この事態を国税労組が取り上げ、当局に対策を求めたことに端を発したが、庁当局の方向性は確申期の昼休み対応へと、とんでもない方向に向かっている。

早急に是正されるべき通常時の休憩時間確保対策については、具体的中身の方向性しか示さず、その状態を引きずって確申期の昼休みも「巡回指導」を含めた全業務を挙署体制で対応するというのだから、休憩時間が完全に保障される見通しは立たず、混乱と労働強化は必至となる。

庁当局は一体何を検討していたのかと問わざるを得ないし、これでは職場に失望と不安を与えるだけである。

庁当局はさらに検討するとし、意見も聞くという。私たち全国税は2度にわたる申し入れを行ってきたが、改めて次のことを表明したい。

一 休憩時間は人間が毎日働く上で必要不可欠な時間であり、この取得によって健康が維持され、仕事の能率も確保されることから、法的に保障された権利である。その保障はひとえに使用者責任の問題であり、

時間管理や休憩場所の確保は当局が責任を持って措置しなければならない。

一 現場任せ、職員任せになっている通常業務時の休憩時間取得については、一刻も早く具体的対策を確立し、実行すべきである。全国税は具体的提案を行ったが、当局の対応に真実が見られない。今なによりも先に手を打たなければならないことを先送りすることは許されない。

一 超繁忙期となる確定申告期は、これまでも「通年」の延長とせず特別の体制をとり、業務や要員、勤務時間の面から職員の健康対策をとってきた。「相談会場における昼休みの確保」は重要な柱であり、この特別の体制は確申期を円滑に運営する上で試され済みであり、有効なものである。外部の相談会場が増え、要員の手配や休憩場所の確保は一層困難になっている現状ではなおさらである。いまでも挙署体制で乗り切っているとき、挙署体制をいうだけでは到底職員の休憩時間は保障されない。確申期の昼休み対応は行うべきでない。

2007年9月14日

全国税労働組合書記長

長谷川 健

全国税

発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内(〒100-0013)

全国税労働組合

発行人 岡田 俊明
電話 (03) 3581-3678
FAX (03) 3507-0886
振替口座 00140-2-68514

“税務の職場” 何でも110番

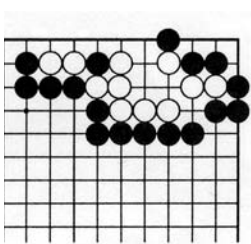
zenkokuzei@aol.com

全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも110番」を常時設置しています(電話とFAXは上記の番号までどうぞ)。

◇全国税ホームページ◇
<http://www.kokko-net.org/zenkokuzei>

詰碁

【出題】九段 石樽 郁郎
黒先
ヒント コウでは失敗です。タメツマリにして白を仕留めます。



そちばん弾

広がる貧困に、もうガマンできない!
の民意を示した日本。新自由主義経済政策の破綻。米国の富者層の税負担は半減、株主に報告する企業所得と税務当局に報告する所得の差は拡大の一途だという。グロブアル時代の税制改革「フォーラムでサマーズ元財務長官が累進税制の強化と企業課税の強化を提案。著名な経済学者P・クルーグマン氏も累進税制の強化を主張。これまでの「成長」から「分配・保障」に潮目が変わる様子がみえてくる。全国民対象の医療保険制度がなく、お金で医療が決められてしまつ米国の実態を映画「シッコ」は暴いている。「医療費亡国論」を公言する者に対し、「シッコ」は驚くような現実を突きつけ告発している。

件数増のカラクリ

▽異動後、東京局では法人の調査件数を画的に増やした。一般調査と重点項目調査の割合を7対3から5対5にし、一人32件程度から36件にする計画に。「大変だ」「増やす手法が姑息だ」の声が上がる。

▽局幹部は口をそろえてe・t・a・x普及促進を強調。19事務年度は、当初目標の3%ではなく、20年度目標の8%を念頭に

おくとハッパ。▽不祥事が後を絶たない。問題が表面化しただけなのか、それとも職場がタイトになったことによる歪みか。著の上げ下ろしまで庁が指示する状況で、本来の仕事をする前、終了してからやる

ことが急増。▽「国税一家」の崩壊

▽「国税一家」が、崩れてきた。中途退職者も増え、定期異動後半年で40数名にのぼった。その背景を探ると、働くのが嫌

になったり、パワハラや病気で辞めたり、子育てや介護のため辞めたり理由はいろいろであった。

証明資料入手

▽「超勤実績と手当の支給率」が記載された資料があり、サービス残業が想定され、開示請求を駆使した結果、署から局に超勤予算を請求するため

の表と確認できた。資料は確認できないとし、勤務時間は適正に管理していると強弁する当局を追及していく。

相談室廃止で
単身赴任

▽仙台市に3カ所の相談

第65回大会発言



大辺代議員(近畿)



吉岡代議員(東京)

一元化
スーパーマン

▽内部事務一元化試行署だが、何でもできる職員は一人しかいなかった。スーパーマンが何人もいれば乗り切れるが、局もスーパーマンばかりつくろうとしているがそうはいかない。

正直な報告では…

▽一元化担当が他事務システムの仕事を何%やったかを報告させている。正直に報告した若手職員の場合、出身系統以外の仕事はほとんどやってなかった。全国的には小規模署が多く、結果的に自分の出身部門の仕事しかできない状況になる。

▽法人の1統・連調官と管理1統の間でこういう風にやろうというものは決めるが、一元化担当者からは「そんな難しいことはできない」と悲鳴が上がる。

試行錯誤、手さぐり状

態が続いている。

4台だけで高齢者が増える

とフル稼働状態。しかしPCで申告書を作成した割合は30%強で、職員は「人体実験だ」と。▽千葉県下周辺署の確定期は週10時間の超勤が常態化している。相談会場



江部代議員(東海)



野田代議員(四国)

アラカルト

パワハラは
人格権の侵害

▽職場のパワハラ問題を

東京地連機関紙で連載している。パワハラは人格権を侵害する違法行為だが当局としてパワハラ

の定義を固められていないのが現状だ。まわりもそうした言動について不快な思い、嫌な思いをする

約束は反故に…

▽外部会場の署では交替制の約束は反故に。そこでも昼休み時間帯に相談をやれと言つか。現場に犠牲だけ押しつける施策には反対すべき。

処遇改善の光見えない

平成20年度庁予算概算要求・概要

8月31日、平成20年度予算概算要求について伝達がありました。

定員は若干の純増、機構の主な要求は専門職中心で、「特官・相談官など中高年職員の処遇改善に直結するポストの大幅な新増設」要求は後景に

主な内容は以下のとおりです。

定員関係
合理化目標数1014、新規増員要求1053で平成20年度定員の純増要求数は139人

経費③調査充実等経費④署庁舎等の耐震補強、庁舎増改築等、職員健診等職場環境整備経費の確保等、「執行に支障が生じないよう所要経費」を要求

庁舎等の建設
局及び署が入居する庁舎整備として新規11件、継続4件を要求

▼ここ5年間の定員増減、ポスト増の推移

	平15	平16	平17	平18	平19	平20
定員増減数	△145	△25	5	△26	26	39
ポスト増数	260	200	161	108	74	

一元化：職場の不安

「近畿・北大阪支部」

吹田署が一元化試行署となりましたが既に数署で試行されているにもかかわらず改善の目まぐるしい変化が噴出。縦割りの組織をそのまま残して職員のみだけ移動したのでは効率が悪くなるのは当たり前。効率が悪ければ、試行署は人員を増やすべき。しかし、人員増はなし。これでは、職員は堪りません。

税務署の幼稚園化？

「北海道・道北支部」

相次ぐ幹部や職員の不祥事。そのせいか、出張前の持ち物点検等。小さな子どものように一挙手一投足に「ああしろ、こうしろ」と細かい指示が飛ぶ。誰が言ったか人呼んで「税務署幼稚園」。かたや国税庁は人減らし施策に躍起。一元化、



e・t・a・xと納税者を署に近づけるなど言いながら「日曜開庁」「昼休み相談」とやることは矛盾だらけ。園長(国税庁)は園児(職員)に向かってムチャクチャ言うから…

勤務時間の徹底と言うから…

「関信・浦和分会」
てつきり定時退庁徹底の具体策が指示されるのかと思いきや、昼休みの相談を全面的にやれということ。いまでも收受、用紙交付、電話相談は対応している。この上相談もと言うなら人員増が前提だ。窓口業務の問題なのに署の意見など取り上げられていない。現場の苦勞がまるで分かっていない。「勤務時間管理の徹底」というなら、それにふさわしい対応をとるべき。話はそれからだ。

詰基

「解答」黒1から3と打つのが好手段。白4に黒5、7で白死です。黒1で白4でコウになり失敗。黒3で6は白3黒5白7以下、白生きです。

